

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101607		
法人名	㈱四方建築設計事務所		
事業所名	グループホーム ぐるんぱの杜		
所在地	水戸市大串町116-4		
自己評価作成日	平成25年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成25年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0870101607-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成25年5月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根付いた施設作りに力を入れています。地域住民との関係を始め、運営推進会議を通しての小学校の児童たちとの交流を定期的に行っています。又夏には、入居者ご家族をはじめ、地域の方の参加を促した夏祭りを毎年施設内で実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域の中で自分らしく暮らすことを重視し、日々の生活スタイルを個人個人に合わせた支援を提供している。施設長・管理者・職員共に利用者の毎日が幸せだと思える支援の提供に努めている。慣れ親しんだ行事(初詣・書初め・かるた・福笑い・味噌作り等)を開催することにより、利用者は生き生きと参加している。地域との交流は小学生の登下校時に見守り支援(調査日には小学生の元気な挨拶が聞こえてきた)を行ったり、社会見学・地域探検の場としての提供や、保育園児・幼稚園児の訪問・野菜収穫の他、自治会に加入し総会・新年会等様々な行事に参加するなどし、日頃より連携を深め、事業所や認知症に対する理解を得ている。事業所主催の夏祭りは多数の地域住民の参加があり、利用者も楽しみにしている。散歩時にはゴミはさみを持参し、環境美化に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に理念を提示しており、提示することにより、日々のケアの心がけとし、実践につながるよう努力している。	開設時に職員と考えた理念を作り玄関に掲示している。利用者ひとり一人が日々良い人生だったと思えるような生活を過ごせる場の提供を、管理者と職員は申し送り時に確認・共有し、日々のケアの実践につなげている。職員からは利用者の笑顔が出る毎日を心がけているとの話が聞けた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の登下校時の声かけや幼稚園児の来訪による、歌やダンス・ゲームなどのイベントじゃがいも掘りなどを行い交流を深めている。	地域とのつながりは、ボランティア(歌・演奏等)の受け入れや夏祭りはポスターを掲示するだけで地域住民の70-80名の参加があり交流を密にしている(イベント開催時は茨大生のボランティア訪問がある)。自治会に加入し、総会や新年会等に参加して事業所や認知症に対する理解が得られるように努めている(区長・班長の当番も回ってくる)。散歩時はごみはさみを持って環境美化に勤めている。以前、体験学習に来ていた中学生の個人的なボランティア訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「夏祭り」開催し、地域の人々を招き、入居者との交流を持つことによって、認知症への理解や支援方法の理解へつなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	事業所にて定期的に開催し、民生委員等地域住民の方の意見を取り入れながらサービス向上に努めている。	2ヶ月毎に自治会長・民生委員(5名)・家族代表(2名)・行政(介護保険課)・事業所担当者の構成メンバーで開催。会議内容は活動予定・報告・利用情報等の他、摂食・嚥下・口腔機能低下・原因・対策の講義を開催。席上出た意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。職員のユニホームを作る提案があり、作成した。議事録にまとめ家族には郵送もしくは面会時に報告している。職員には会議等で報告し共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して下さる市の職員との関係を密に行い地域とのふれあいやケアサービスの向上へ努めている。	地域密着型連絡協議会に出席し、行政と情報交換を行っている。生保担当者との連携も密に行っている。小学生の社会見学・地域探検の場としてホームを提供したり、登下校時に挨拶運動を実施。保育園児や幼稚園児との交流やジャガイモ堀等の触れ合いを利用者は楽しんでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	対象となる行為については、理解しており、入居者様の移動・不穏時などは、安心の声かけ等にて工夫している。夜間は安全の為玄関のみ施錠している。	拘束となる行為とそれに伴う弊害は勉強会やミーティングで全職員理解しており、拘束をしないで利用者の安全に配慮したケアの提供に努めている。書面に拘束について明示し、家族へ契約時に説明している。家族からの要望で転倒防止のため夜間のみベッド柵を使用しているが、利用者の状態を見て、別の方法を考慮中。安全上夜間は施錠している。スピーチロックは全職員で注意をしている。車椅子の点検は職員が週1回実施し、利用者の安全に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会については自己啓発に委ねられている部分も多いがきちんと理解しており、虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会については自己啓発に委ねられている。未だ活用の事例がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事業所を見て頂き、十分な説明を行い理解・納得を得た上での契約となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に関しては、日々の意見・訴え等の要望を出来る限り受け入れている。又ご家族に関しては来訪時のCMを図っている。ケアプランの確認等をお願いしている。	事業所の苦情受付窓口・第3者機関名・電話番号を契約時に説明し、重要事項説明書に明示している。面会時に介護記録を見せて欲しいと言う家族には記録を見せ、利用者の日々の様子を伝えている。利用者の要望等は日々の会話の中から吸い上げ、意向に沿えるよう支援に努めている。意見箱を設置しているが、個人的な要望等は直接面会時に聞き、その都度対応している。職員の異動は面会時に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時を意見交換の場として、共に日々の職員の意見もその都度反映させている。	現場の職員からの意見・要望は貴重であり、管理者は聞く機会を設け反映させている(シフトの入れ方・備品・購入要望等)。毎月のミーティングで意見を出し合い、職員が働きやすい職場環境作りに努めている。管理者とは何でも言い合える関係であると、職員への聞き取り調査時に確認された。職員のストレス・不満には表情・様子から管理者が声掛けを行い解消に努めている。個々に話をする機会を設けたり、職員の意欲を高めるために担当を割り振ったり、やりがいや責任を導き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力を把握し、その状況にあった担当職務を行わせると共にスキルアップの為に担当を持たせやりがいや責任を導き出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けることは、自己啓発による事が多くなっているが、管理者から各職員のスキルに合った研修への参加を促されている。又、事業所内ではマナー実習なども実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に他の施設職員との会話をする機会があり、交流につなげている。又、イベント時等其他の施設を訪問することによって交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや願いを傾聴すると共にご家族と以前の生活環境等のCMを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望を傾聴しご家族の出来る限りの要望に応えると共に来訪時のCMを蜜に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の希望・要望するサービスを最優先すると共に現在必要とされる支援を状況より話し合い判断・対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時に冗談を交わしながら個人の尊厳を尊重し信頼関係を築ける努力を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には外出・イベント時又生活の近況を伝え、その都度のやりとりをしている。又、施設の催し物やイベントに来訪していただけるように声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅への外出やご家族への電話等気軽に出来る環境を提供し、年賀状・手紙等馴染みの方へのお便りを送れるように支援している。	手紙・電話(週1回葉書を出す利用者や固定電話を引いている利用者がある)での支援や親戚・友人の訪問等の馴染みの人との関係継続に努めている。馴染みの理容室・買物・初詣・千波湖等に職員手作りのお弁当持参で出かけ、思い出の場所での楽しい一時を過ごしている。馴染みの味のお饅頭を買いに行ったり、自宅の延長で新聞購読・乳酸飲料を飲んでいる利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個室で過ごされるなど、本人の意思を尊重する場合がありますが、ホールで過ごされる時は、職員が間に入意思の伝達等のサポートを行いながら良い関係作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去された方へのお見舞いなどの機会も設けており、又、ご家族とも気軽な来訪やイベント参加などお声をかける機会も多く、関係の継続が図れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の生活習慣・環境の把握を努めている。意思疎通の難しい方はご家族の要望やカンファレンスの話し合いで職員間意見を出し合って良いケアを行えるように努めている。	アセスメントや家族からの聞き取り、利用者の職歴や趣味、日々の会話の中から利用者の思いや希望の把握に努めている。困難な場合は表情や様子から利用者本位になっているか状況観察を行い、職員間で検討を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院の看護経過や以前の施設の情報や資料を参考にすると共に、家族とのCMを蜜に図るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	さりげない声かけや状況観察にて現状・心身状況を把握し、記録や申し送り等で職員間での情報伝達をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意思を尊重することを基本とし、ご家族の意向も取り入れモニタリングやカンファレンスの実施により現状に即した介護計画の作成を試みている。	利用者や家族から介護に関する意向を聞き、カンファレンスを開催して課題とケアのあり方について話し合いケアプランを作成。作成後は家族に説明し同意を得ている。介護経過記録は全職員で共有し、それに基づいたケアプランの見直し・検討が行われている。モニタリングは毎月実施し、評価につなげている。状況変化時は変化後の状況にあったプランを作成。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入することにより、職員間の情報の共有や今後のケアへの工夫・介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望(個々での外出・買い物等)に対応できるように、その都度日時などの調整を図り、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の日課である散歩時など地域環境を把握して頂いたり、園児や小学生への通学時の声かけを行い、又地域イベントへの参加の中で地域との協働を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った病院・かかりつけ医を提供している。又、定期受診と共に状態変化時の急な受診にもその都度対応している。	利用者・家族が希望するかかりつけ医には、家族の付き添いが無理な場合は職員が付き添って受診している。受診後は報告を受けて記録に残し、家族・事業所で共有している。職員付き添いで受診の場合は電話で家族に報告し、個人受診記録に記入している。	家族に電話で報告したことが確認できるように、いつ、誰に報告したかを記入することが望ましい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護の来訪時のやりとり・相談を蜜に行っている。又施設職員の看護師の方との連携にも随時相談し、より良い支援を努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至るまでの情報提供や相談を努めている。なお、緊急時に受け入れ可能な病院などを把握し、関係作り・CMを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療機関や家族との話し合いの場を持ち・入院やターミナルケアの準備や対策をとり、身体的・心理的ケアを出来る様、職員は支援すると共に訪問看護などの協力も得ている。	重度化対応・終末期ケア対応指針を作り、契約時に説明し同意書を取り交わしている。訪問看護と連携し家族の協力を得て、利用者にとって最善の体制で支援に努めたいと全職員で取り組んでいる。終末期の利用者の背中を、他の利用者がさすったりする心温まる姿があった。お墓参りに職員と一緒に出かけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	専門職の方に依頼し応急手当の訓練・研修は行っている。手順等のマニュアルも作成しており、随時対応できような準備は出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ての避難訓練を定期的におこなっている。又施設内研修としての災害対策も実施している。	消防署指導(年2回)・自主訓練(3ヶ月ごと)を開催し、家族・民生委員の協力を得て、夜間・昼間の利用者の行動把握・避難経路確認・緊急連絡通報・連絡網・持ち出し用品・消火器使用方法等を全職員が身につけている。携帯電話からの通報も周知。備蓄品は4～5日分・緊急持ち出し用品(常備薬など)も整備している。広域避難場所は家族も周知している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を損なわないような声かけを心がけると共に個室によるプライバシー確保も行われている。	利用者の人格を尊重した対応を心がけている。調査時の声掛けは、ゆっくりと落ち着いたトーンで利用者の笑顔が常にあった。個人情報保護に関する同意書も得ている。書類関係は事務所内に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が出来る入居者様とは、コミュニケーションによる希望等への対応を心がけ、又自己表現が難しい方へは、声かけによる変化や表情に注意し意思疎通を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活による最低限のルール以外は本人のペース・気分・体調・状態などにより生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前の生活習慣を考慮しながら、個々に化粧等を行ったり、身だしなみや整容に必要なものをご家族と話し合い提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食器洗い等、押し付け・負担にならないように声かけにて職員と共にお願いしている。又、定期的に個々での希望の場所へ外食にも行っている。	献立は調理人が立てたもので提供。利用者はそれぞれの出来ることに合わせ、食材の買出し・食事準備・下膳・食器拭き等を職員と一緒に楽しげに行っている。職員と利用者は同じテーブルを囲み、和気藹々とした食事風景である。利用者の状況・体調に合わせた食事形態で提供されている。おやつ作りは週1回、午後のイベントとして行っている。(クレープ・ホットケーキ等)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の現病への配慮はあるが本人が食べられる量や希望の量の提供をしている。又、1日の水分量の調整や確保を記録とつけるとともに実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけと共に見極めながら介助もしている。定期受診による義歯の調整や口腔内の状態も把握している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	手すり使用による立位保持などの生活リハビリを通して自立による排泄を極力支援している。又排泄チェック表にてトイレへの声かけを行い失禁しない生活パターンが出来るよう努めている。	排泄パターンを把握し、表情や様子から察知して声掛け誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。失禁時にはプライバシーを損なわない配慮をしている。トイレ介助によりリハパンから布パンツに改善された利用者がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や乳飲料の提供、運動や体操・マッサージ等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持を考慮した上で個々の気分や体調に合わせて入浴を行っている。また希望の時間帯に入浴できるよう事前に計画・管理している。	基本的に入浴日は決めているが、希望があればいつでも入浴可能である。利用者が楽しんでゆっくり気持ちよく入浴出来るよう、入浴剤を入れている。こどもの日の菖蒲湯も全員ではなく、菖蒲により混乱を起こす利用者には菖蒲を入れないで入浴してもらおうという、きめ細かな支援を行っている。入浴時は利用者と職員の会話が弾む貴重な一時となっている。皮膚疾患に注意し入浴時に観察している。足拭きマットの上にタオルを敷いている。拒否者には無理強いせず自ら気持ちよく入浴してもらえるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のタイミングで休息をとって頂くが、状態等により休息を促すこともあります。又、夜間の安眠を図れるように担当医との連携・相談も随時行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎時の処方時に薬の説明書を頂き、職員がその内容(効果・副作用)を把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に合わせ、裁縫やお菓子作り等実施している。又家事手伝い等も負担にならないように心がけ行い本人の役割をつくるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	散歩や外気浴は定期的に行っており、個々の必要品等の買い物に外出する機会を多く提供しています。	天気の良い日は利用者の体調に合わせてながら周辺を散策し、太陽の日差しを浴びて五感の刺激に努めている。季節ごとの外出・外食・買物等戸外に出かけられるよう支援に努めている、病院受診に家族と出かけ、お茶や外食を楽しんでくる利用者がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望に合わせお金の所持を行い、その都度の買い物を実施している。又金銭管理のため出納帳の記入・記録を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用でき、子機による居室での使用も可能であり、希望時に提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、玄関前にはプランターを置き日々の水やりもお願いしています。又自席以外にもくつろげるソファを設け壁には思い出の写真等を掲げくつろぎやすい環境に努めている。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱を招くような刺激は全くなく、温かみのある造りとなっている。調査時の季節の花である母の日のカーネーションを飾り、見当識に配慮している。壁には利用者の日常の楽しい生活様子が分かるような写真が飾っており、家族との会話の話題提供となっている。利用者同士ソファでテレビを見ながら、会話を交わしている姿がほほえましい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外観が見られる場所に椅子を設置に1人で過ごせたり、希望に沿った音楽等も流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の使用を薦めているのでダンスや机等持参される方も多くおり、又、本人・家族と相談し居室のインテリアに協力している。	使い慣れたものが利用者の安心感になることを家族に伝え、テレビ・テーブル・小物・趣味の飾り物・写真(相撲の親方と一緒に)等を配置し、利用者が居心地よく過ごせる居室となっている。部屋の掃除は職員と一緒に毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙等、それぞれがわかるように、工夫している。また刃物等危険が考えられる物は手の届かない場所に置き、自由に安全が図れる環境を整えている。		

目標達成計画

作成日: 平成 25年 8月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	現在、毎月のミーティングを初め、個々の職員の意見・要望に耳を傾け取り入れている。又、職員の不満やストレスにもその都度声かけを働きやすい職場環境に努めている。	さらなるより良い職場環境を目指し努力を行っていく。	毎月のミーティングのみならず、職員各々と話し合える機会(個人面接)を年を通して2~3回程度授け、職員の意見や希望が反映される又不安や不満を解消できる施設作りを行う。	6ヶ月
2	27	個人記録を記入し、職員間の情報の共有、介護計画のケアの工夫を行っているが、更なるケアの向上を図るため、記録に質を高めていきたい。	より利用者の希望が反映された又状況が深く理解できる個人記録を記入できるようにして行く。(ケアプラン・モニタリングについてより反映された記録内容にする)	日々の記録内容の書き方を施設長及びホールリーダーが毎時確認し、その都度修正があれば行っていく。又その状況等をミーティング時にも話し合っていく。	6ヶ月
3	30	病院受診時、ご家族の付き添いが出来なかった時は、その都度ご家族に電話報告しているが、その報告を記録としてつけていない。(個人受診記録はしっかりつけている)	ご家族への電話報告についても「いつ・誰に」報告したか記載していく。	書式を作成し「いつ・誰に・何を」報告したか記載できるようにし、その内容をわかりやすくまとめ整理しておく。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。